

社会システム研究科(博士前期課程)

(1)現代経済専攻

分野	研究指導教員名	研究テーマ	指導領域
経済	畔津 憲司	労働経済学や行動経済学に関する研究など	労働経済学などの領域
経済	牛房 義明	因果推論、行動経済学などの知見を活用したフィールド実験をエネルギー、ジェンダーなどの分野で行っています。	ミクロ経済学をベースにした理論分析、実証分析の研究に対応可能です。
経済	魏 芳	国際相互依存下の貿易・投資・産業政策の経済分析を主なテーマとしています。グローバル・バリューチェーン(GVC)に関する理論・実証分析にも関心を持っています。	国際経済、国際貿易、応用ミクロ経済分析など、主に理論分析を中心に指導を行います。統計データを活用した実証研究も歓迎します。
経済	後藤 宇生	構造推定と仮想実験を道具に、企業間競争、特に多市場接触や内生的製品属性の分野に興味を持って、分析を行なっています。	POSデータ等を利用した、消費者行動(差別化された財の需要関数の推定等)と企業間競争(需要関数の推定値とゲーム理論を利用した仮想実験等)の研究に興味のある方は、ご連絡ください。
経済	白石 麻保	アジアの新興国経済に生じている諸問題を計量分析と現地調査の双方を用いてミクロ方面から分析しています。主な対象は中国です。	アジアの新興国、途上国経済、市場についての統計データを活用したミクロ実証研究で、フィールドワークを含む政策提言を重視する研究が対応領域です。
経済	田中 淳平	マクロ経済学の様々なトピックス(バブル経済、財政・金融政策、二重労働市場など)に関心があります。	マクロ動学モデルに基づく理論分析が主な指導領域になります。
経済	田村 大樹	情報社会の進展に伴い地域経済がどのように変化するのかについて、経済地理学的方法論から考察しています。	経済地理学、産業立地論、都市経済論、情報社会論、といった研究領域に関する方法論研究であれば対応可能です。
経済	土井 徹平	19世紀末から20世紀初頭の日本経済史を専門としています。特に地域・職業間の「労働移動」の分析を通じて、近代産業の発展に伴う労働市場の形成・発展のプロセスを実証的に明らかにする研究を行っています。	19世紀末から20世紀初頭(第二次世界大戦前)の日本経済史、産業史、労働史、労使関係史など。北九州の地域経済史に関する研究にも対応可能です。
経済	藤井 敦	医療関連産業の生産面における実証的効率性分析を行っています。特に、統計的分析と親和性の高い経済学的モデル開発に関心があります。	計量経済学的効率性分析。
会計・経営	池田 欽一	情報工学手法の経済・経営データへの応用をテーマとしています。ただし、少数データの性質に着目したものではなく、多量のデータを用いた研究を行っています。	経済・経営データに限らず、多量のデータを得ることができる分野へのAI・機械学習手法の応用が主で、分野やデータの性質に応じた分析などには対応できない場合があります。
会計・経営	浦野 恭平	企業、特に中小企業のイノベーションの促進要因について研究しています。リーダーシップや組織能力の側面、そして、外部連携についての調査などを実施しています。	経営戦略論、組織論、人的資源管理論、そして、マーケティング領域からの研究指導に対応しますが、調査・分析方法は定性的な手法をとっています。
会計・経営	山下 剛	経営学、経営組織論が専門で、主として企業を念頭に、組織と人間の関係性に関する理論的な研究を行っています。	モチベーション論をはじめとした組織行動論の領域、日本企業の組織的な特性についての研究などです。

社会システム研究科(博士前期課程)

(2)地域コミュニティ専攻

分野	研究指導教員名	研究テーマ	指導領域
コミュニティ基礎	児玉 弥生	学校と地域社会の連携・共同について研究しています。特に学校における教育課程の設計と実施の過程に関心があります。	教育制度、比較教育、教育経営、教育社会学、カリキュラム開発等。外国にルーツのある子どもの教育と保護者の支援等も対応可能。教育と福祉の学際的なテーマも歓迎します。
コミュニティ基礎	田島 司	自己やアイデンティティの問題を社会的相互作用とのかわりから検討する社会心理学的な基礎研究をしています。	社会心理学分野の先行研究をふまえて、心理的機制を議論し、量的な実証研究を行うのであれば、扱う現象は広く対応可能です。
コミュニティ基礎	恒吉 紀寿	市民活動や運動など活動・実践を通した成人や子どもの主体(的)力量)形成(のプロセス)やその支援について関心を持っています。	社会教育、地域、社会を中心に人間の育ち(成長、変容)に関わる研究や、それにかかわる施策、事業、行政の研究も可能です。
コミュニティ基礎	松本 亜紀	注意、記憶、情動をテーマに認知心理学的研究を行っています。特にストループ・逆ストループ干渉についての基礎的研究に関心があります。	認知心理学、実験心理学が専門です。実験や調査を通した量的研究に対応可能です。
コミュニティ実践	坂本 毅啓	現代社会における社会福祉について、臨床(ミクロ)、地域(メゾ)、制度・政策(マクロ)を横断的に研究をしています。地域における社会的排除、ソーシャルワーク教育におけるICT活用が最近の主なテーマです。	社会福祉学、社会保障制度、社会福祉政策、地域福祉、貧困・社会的排除、ソーシャルワーク教育など。ミクロ、メゾ、マクロレベルの実践、制度・政策、理論など、社会福祉学によるアプローチであれば幅広く対応可能です。
コミュニティ実践	深谷 裕	障害者、元受刑者、外国人など社会的マイノリティの地域定着に向けて、個人支援と社会的支援の在り方を長期的視点から検討し、質的・量的手法を用いて実証的に研究しています。	社会福祉学を基盤に、犯罪学、社会学、教育学、地域政策など隣接領域の知見を活用し、社会的マイノリティの支援の在り方や社会的排除の構造、当事者との関係構築等について、学生の関心に応じて多角的に指導を行います。
コミュニティ実践	山下 智也	子どもの主体性を保障するための大人の居方・関わり方や、それを取り巻く子どもの環境(遊び場・居場所)などについて、実践と研究の両輪でアプローチしています。	教育心理学、環境心理学など。ベースとしての心理学を学んだ上での、応用的かつ質的な研究に対して、指導可能です。
コミュニティ実践	小林 敏樹	公共空間の利活用、エリアマネジメント、交通、観光、教育、まちあるき、文化、こども、健康や医療、空き家の活用など、多様な視点から持続可能な地域やまちのあり方について研究を行っています。	都市計画、建築、地域政策、教育、観光、交通、福祉、医療など、まちづくり、地域づくりに関する多様な分野の研究テーマに対応可能です。
コミュニティ実践	上田 紋佳	読書をはじめとする言語活動および児童の言語発達に関して、心理学的観点から研究しています。また、教育・臨床実践への応用にも関心があります。	言語・認知や発達に関する心理学研究に広く対応可能です。また、教授・学習心理学などの知見を応用した実践的な教育研究も歓迎します。
フィールド文化	岩松 文代	人と自然の関わり方を人文社会的に研究しています。歴史や交流、地理や生態、産業や消費、言語や精神性など、様々な視点で考察しています。	環境社会学、自然文化学を基本として、人と自然の関わり方の解明や課題解決をテーマに、史料による歴史調査、文学や絵画等を用いた自然の考察、現代の農山漁村地域の人々を対象とする社会調査なども対応しています。
フィールド文化	竹川 大介	人類学の分野でフィールドワークを主体としたコミュニティ研究をおこなっています。人類学、海洋民族学、沖縄地域研究、アジア太平洋地域研究。	これまでの院生は人と環境の関わり、共同体における紛争解決、贈与交換と交易、アートと人間性など、人に関わるさまざまなテーマで、国内外の多地域をフィールドに社会調査をおこなっています。
フィールド文化	濱野 健	社会学を専門にしています。家族とりわけ離婚を経験した別居家族のその後の共同養育について関心を持っています。	家族社会学
フィールド文化	西田 心平	都市・地域をフィールドにした歴史的・社会学的な研究が専門です。観察と関与の両面を含んだフィールドワークに関心があります。	社会病理学、臨床社会学、質的調査法、エスノグラフィなど、フィールドに入り込む際の視点や方法、調査・記述の方法について学びたい方を歓迎します。

社会システム研究科(博士前期課程)

(3)文化・言語専攻

領域	研究指導教員名	研究テーマ	指導領域
英米言語文化	Wayne.E.Arnold	ヘンリー・ミラーと日本の関係を通して、20世紀以降の日米間の文学・文化交流を探究しています。特に、ミラー作品の日本における受容を手がかりに、アメリカ文学と日本社会の相互影響に注目しています。	20世紀および21世紀のアメリカ文学・文化研究、都市文化論、ニューヨークを中心とした都市表象、比較文化研究に対応可能です。文学を通じた社会的・歴史的な文脈の考察も歓迎します。
英米言語文化	Adam Hailes	My main research interest is in British theatre. I am particularly interested in the stagecraft of William Shakespeare and theories of pleasure.	I would be happy to supervise theses that focus on British theatre, Shakespeare, English literature, and the ways in which forms of entertainment can shape public opinion.
英米言語文化	Jenifer Larson-Hall	Second language acquisition, research methodology, language teacher training, fluency, vocabulary	Introduction to Linguistics, Phonetics & Phonology, Language Learning, Bilingualism, English Conversation, Vocabulary Acquisition Zemi
英米言語文化	木原 謙一	イギリス・アイルランド文学を研究しています。研究の中心はアイルランドの国民詩人W. B. イェイツ、イギリス19世紀ロマン主義です。近代合理主義が捉えきれない存在の不思議を捉えようとした詩人に興味があります。	指導領域としては、イギリス・アイルランド文学の19世紀以降の文学が対象です。古いところから系譜学的に一つの主題を追うという方法も対応しています。
英米言語文化	齊藤 園子	19世紀から20世紀にかけてのアメリカ文学を中心に研究してきました。特に、ヨーロッパへの移住や滞在の経験を持つ在欧・滞欧アメリカ人作家の作品における文化的アイデンティティを主な研究テーマにしています。	19世紀から20世紀にかけてのアメリカ文学および英語圏文学の研究を歓迎します。映像作品(映画やテレビなど)との関連も対応できます。
中国言語文化	胡 玉華	中国語教育に関する実践研究を行っています。特にコミュニケーション能力をアップさせるための教室活動の設計に関心をもっています。	中国語教授法に関する実践的研究(例えば、声調学習における指導法、諸文法項目の教え方など)が大歓迎です。また、「教学文法」の研究や中国語教育に関わる中国文化の研究にも対応可能です。
中国言語文化	武井 満幹	陶淵明、『文選』を中心に、中国六朝時代の文学を研究しています。詩文に使われている語や表現に注目し、それらが何に基づきどう継承発展されているのかという点に関心があります。	中国古典文学・漢詩・漢文
比較文化	Fiona Creaser	My research focuses on gender and diversity, I am currently involved in three main areas of research, one is called Unity in Diversity which aims to bring instruction about diversity to students at UKK, the second is teaching young people about diversity through the Kids2Kids foundation and the third is teaching about diversity to older people in the community using i-Design Community College as the medium of instruction.	Areas of instruction include, diversity, gender, intercultural culture, women's empowerment and queer studies.
比較文化	Rodger Williamson	ラフカディオ・ハーンの著作活動や未刊資料、自筆ノートを通じて、彼の世界観が形成された過程を明らかにすることを主なテーマとしています。特に、当時の社会問題への洞察、異文化環境における適応の在り方に関心があります。	比較文化論、ラフカディオ・ハーン研究、異文化コミュニケーション、異文化適応に関する研究などに対応可能です。すべての指導は英語で行われ、英語による研究活動および論文執筆の経験が求められます。
比較文化	圃迫 雅彦	生成文法理論に基づく言語獲得のメカニズム解明に焦点を当てています。特に、日本語や英語を母語とする幼児の言語発達過程における機能範疇の習得に注目し、統語構造の発達を実証的に分析しています。	生成文法理論を基盤とした言語獲得研究、言語間の比較研究について、実証的なデータ分析と理論的枠組みを融合させた研究に対応できます。
比較文化	永末 康介	日本語の統語構造と文法現象を理論言語学(主に生成文法理論)の観点から分析します。日本語と他言語との統語現象の比較研究や理論的知見を応用した言語教育への展開にも関心があります。	理論言語学に基づく統語分析や、言語変異・変化の研究など。
比較文化	真鍋 昌賢	これまで近現代日本の大衆芸能・口承文芸に関心をもち、声の表現が、様々なメディアと関わりながら、どのように生成・受容されてきたのかを研究してきました。主な研究対象は浪曲です。	メディア史、メディア論の知識を前提として、近現代日本における大衆芸能史、口承文芸についての研究(特に口頭芸)を指導領域としています。